

水見市内遺跡発掘調査概報 V

一般国道415号道路改築事業に伴う試掘調査ほか

2015年3月

水見市教育委員会

氷見市内遺跡発掘調査概報 V

一般国道415号道路改築事業に伴う試掘調査ほか

2015年3月

氷見市教育委員会

序

東に富山湾を隔てた盡峰立山を仰ぐ氷見市は、古くから海の幸、山の幸に恵まれ、人々の生活の場として、数多くの文化遺産を生み育んできました。これら、郷土に残る文化財は先祖より受け継がれてきたものであり、私たちはあらためてその歴史的、文化的価値を再認識しながら、末永く子孫に引き継いでゆかねばなりません。

本書で報告するのは、平成25年度から同26年度にかけて氷見市教育委員会が実施した試掘調査の概要です。

調査対象となった6つの遺跡のうち、一般国道415号道路改築事業に伴って試掘調査を実施した中村大橋遺跡では、古代の遺構や遺物が確認されました。来年度には、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所による本発掘調査が実施されることになっています。

また、能越自動車道氷見南IC整備事業に伴い試掘調査を実施した惣領浦之前遺跡においても、遺構や遺物が確認され、来年度には本発掘調査の実施を予定しています。

本発掘調査には至らなかつたその他の遺跡についても、その調査成果は、今後の遺跡保護に対する大きな蓄積となるものと考えています。これら調査の成果が今後の文化財保護の一助となるとともに、地域の歴史への関心、理解につながることを願っております。

試掘調査の実施にあたり、土地所有者の方をはじめ、関係機関の皆様に多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

氷見市教育委員会

教育長 前辻秋男

例　　言

- 1 本書は、平成25年度および同26年度に富山県氷見市内において実施した天場山南遺跡・中村大橋遺跡・惣領浦之前遺跡・松田江北遺跡・窪北遺跡・鞍川D遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査は、市内で計画されている開発行為に伴い、氷見市教育委員会が実施した。
- 3 調査費用は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
- 4 調査期間は、以下のとおりである。
- | | | |
|--------|---------|-------------------------|
| 平成25年度 | 天場山南遺跡 | 平成26年3月3日～3月6日（実働3日） |
| | 惣領浦之前遺跡 | 平成26年3月18日（実働1日） |
| 平成26年度 | 松田江北遺跡 | 平成26年7月14日～7月17日（実働4日） |
| | 窪北遺跡 | 平成26年8月27日（実働1日） |
| | 鞍川D遺跡 | 平成26年9月3日（実働1日） |
| | 中村大橋遺跡 | 平成26年11月26日～12月2日（実働5日） |
- 5 調査事務局は、氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課に置いた。事務担当は下記のとおりである。
- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 平成25年度 | 課長：坂本研資、副主幹：大野 究、主査：布尾 誠、主任学芸員：廣瀬直樹 |
| 平成26年度 | 課長：坂本研資、副主幹：大野 究、副主幹：布尾 誠、主任学芸員：廣瀬直樹 |
- 6 調査および本書の執筆・編集・製図・トレイスは、廣瀬が担当した。また遺物および図面の整理作業は、廣瀬が中心となり、整理作業員三矢恵京と中山 海が行った。また、中村大橋遺跡については出土遺物の整理業務を株式会社アーキジオに委託した。
- 7 発掘作業員の派遣は公益社団法人富山県シルバー人材センター連合会に委託し、公益社団法人氷見市シルバー人材センターから派遣を受けた。調査に参加した作業員は次のとおりである。
- | | |
|--------|--|
| 平成25年度 | 遠藤幸雄、藤 利雄、小泉 進、中谷正一、橋 貞夫、向 修誠、村田重政、山口一雄 |
| 平成26年度 | 今井正治、河上外之、小泉 進、清水不二雄、多湖恒夫、谷澤敏夫、東海将高、鳥内義治、中田伴行、向 修誠 |
- 8 出土遺物と調査に関わる資料は、氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課が保管している。
- 9 遺跡略号は以下のとおりである。
- | | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|---------|---------|
| 天場山南遺跡 | T B YM | 中村大橋遺跡 | N KMOH | 惣領浦之前遺跡 | S R U M |
| 松田江北遺跡 | M D E K | 窪北遺跡 | K B K | 鞍川D遺跡 | K R K D |
- 10 調査および本書の作成にあたり、下記の機関から多大なご教示、ご協力を得た。記して感謝申し上げる（五十音順・敬称略）。
- 株式会社アーキジオ、株式会社サクラテクノ、株式会社畠中木材、富山県教育委員会生涯学習・文化財室、富山県高岡土木センター、氷見市建設農林水産部能越自動車道対策室、氷見市立博物館

目 次

第1章：序説

第1節：水見市の位置と環境.....	1
第2節：平成25年度下半期および同26年度事業の概要.....	1

第2章：一般国道415号道路改築事業に伴う天場山南遺跡・中村大橋遺跡試掘調査

第1節：遺跡の環境.....	3
(1) 地理的環境.....	3
(2) 歴史的環境.....	3
第2節：調査に至る経緯と経過.....	4
第3節：天場山南遺跡試掘調査の概要.....	6
(1) 調査対象地.....	6
(2) 調査の概要.....	6
(3) 調査結果.....	6
第4節：中村大橋遺跡試掘調査の概要.....	8
(1) 調査対象地.....	8
(2) 調査の概要.....	8
(3) 調査結果.....	8
(4) 出土遺物.....	10

第3章：能越自動車道水見南IC整備事業に伴う惣領浦之前遺跡試掘調査

第1節：遺跡の環境.....	12
第2節：調査に至る経緯と経過.....	12
第3節：試掘調査の概要.....	13
(1) 調査対象地.....	13
(2) 調査の概要.....	13
(3) 調査結果.....	13

第4章：その他、水見市内開発事業に伴う試掘調査

第1節：宅地造成に伴う松田江北遺跡試掘調査.....	15
(1) 遺跡の概要.....	15
(2) 調査の概要.....	15
(3) 調査結果.....	15
第2節：介護施設建設に伴う猪北遺跡試掘調査.....	18
(1) 遺跡の概要.....	18
(2) 調査の概要.....	18
(3) 調査結果.....	18
第3節：ドラッグストア広告塔設置に伴う鞍川D遺跡試掘調査.....	20
(1) 遺跡の概要.....	20
(2) 調査の概要.....	21
(3) 調査結果.....	21
引用・参考文献.....	23
報告書抄録・奥付	

表 目 次

第1表 天場山南遺跡 基本層序.....	6
第2表 中村大橋遺跡（T 1～10） 基本層序	10
第3表 中村大橋遺跡（T11～26） 基本層序	10
第4表 惣領浦之前遺跡 基本層序.....	14
第5表 松田江北遺跡 基本層序.....	17
第6表 窪北遺跡 基本層序.....	19
第7表 鞍川D遺跡 基本層序.....	21

挿 図 目 次

第1図 調査対象地位置図.....	2
第2図 一般国道415号（谷屋大野バイパス）道路改築事業調査対象地位置図	5
第3図 天場山南遺跡試掘トレンチ位置図.....	7
第4図 中村大橋遺跡試掘トレンチ位置図.....	9
第5図 中村大橋遺跡出土遺物実測図.....	11
第6図 惣領浦之前遺跡位置図.....	12
第7図 惣領浦之前遺跡試掘トレンチ位置図.....	14
第8図 松田江北遺跡位置図.....	15
第9図 松田江北遺跡試掘トレンチ位置図.....	16
第10図 窪北遺跡位置図.....	18
第11図 窪北遺跡試掘トレンチ位置図.....	19
第12図 鞍川D遺跡位置図.....	20
第13図 鞍川D遺跡試掘調査対象地位置図.....	22

写真図版目次

図版 1	一般国道415号（谷屋大野バイパス） 道路改築事業調査対象地空中写真	2. 出土遺物（2） 3. 出土遺物（3）
図版 2	一般国道415号（谷屋大野バイパス） 道路改築事業調査対象地遠景 1. 手前：天場山南遺跡 ・奥：中村大橋遺跡（西から） 2. 手前：中村大橋遺跡 ・奥：天場山南遺跡（東から）	図版11 惣領浦之前遺跡試掘調査（1） 1. T 1 完掘状況 2. T 1 土層断面 3. T 1 溝跡木製品出土状況 惣領浦之前遺跡試掘調査（2） 1. 作業風景 2. 出土遺物（1） 3. 出土遺物（2）
図版 3	天場山南遺跡試掘調査（1） 1. 調査区近景（東から） 2. 調査区近景（西から） 3. 作業風景（1）	図版13 松田江北遺跡試掘調査（1） 1. 調査区近景（北から） 2. T 4 完掘状況 3. T 4 土層断面
図版 4	天場山南遺跡試掘調査（2） 1. T 1 完掘状況 2. T 1 土層断面 3. 作業風景（2）	図版14 松田江北遺跡試掘調査（2） 1. T 6 完掘状況 2. T 8 土層断面及び遺構検出状況 3. T 9 完掘状況
図版 5	中村大橋遺跡試掘調査（1） 1. 調査区近景（西から） 2. 調査区近景（東から） 3. 作業風景	図版15 松田江北遺跡試掘調査（3） 1. T 13 土層断面 2. T 17 完掘状況 3. 作業風景
図版 6	中村大橋遺跡試掘調査（2） 1. T 4 完掘状況 2. T 4 土層断面 3. T 4 遺構検出状況	図版16 松田江北遺跡試掘調査（4） 1. 出土遺物（1） 2. 出土遺物（2） 3. 出土遺物（3）
図版 7	中村大橋遺跡試掘調査（3） 1. T 5 完掘状況 2. T 5 土層断面 3. T 5 遺構検出状況	図版17 窪北遺跡試掘調査（1） 1. T 1 完掘状況 2. T 1 土層断面 3. 作業風景
図版 8	中村大橋遺跡試掘調査（4） 1. T 7 土層断面及び遺構検出状況 2. T 8 土層断面及び遺構検出状況 3. T 9 土層断面及び遺構検出状況	図版18 窪北遺跡試掘調査（2） 1. T 2 完掘状況 2. T 2 土層断面 3. 出土遺物
図版 9	中村大橋遺跡試掘調査（5） 1. T 16 土層断面 2. T 25 完掘状況 3. T 25 土層断面	図版19 鞍川D遺跡試掘調査 1. T 1 完掘状況 2. T 1 土層断面 3. 作業風景
図版10	中村大橋遺跡試掘調査（6） 1. 出土遺物（1）	

第1章 序 説

第1節 氷見市の位置と環境（第1図）

氷見市は、富山県の西北部に位置し、能登半島の基部東側にあたる。昭和27年の市制施行から昭和29年までに旧太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230km²、人口は約5万1千人である。

市域は、北・西・南の三方が標高300～500mの丘陵に取り囲まれ、これら丘陵から派生する小丘陵により、西条・十三谷・上庄谷・八代谷・余川谷・瀧浦の6つの区域に分けられる。また市の東側は、約20kmの海岸線をもつて富山湾に面している。市の北半部は、上庄川・余川川・阿尾川・宇波川・下田川といった小河川とその支流からなる谷地形であり、上庄川流域以外はまとまつた平野が少ない。一方、市の南半部は、主として布勢水海（十二町潟）が堆積してできた平野と、その砂嘴として発達した砂丘からなる（氷見市1999・2000）。

第2節 平成25年度下半期および同26年度事業の概要

平成25年度上半期には、4月下旬に氷見市内の民間開発行為に先立つ加納金宮遺跡の試掘調査1件を実施した。この詳細については、平成26年3月刊行の『氷見市内遺跡発掘調査概報IV』（氷見市教育委員会2014a）にて報告した。

一方、平成25年度下半期には、富山県高岡土木センターより依頼を受けた一般国道415号（谷屋大野バイパス）道路改築事業に先立つ天場山南遺跡（氷見市谷屋地内）の試掘調査および、氷見市建設農林部（現・建設農林水産部）能越自動車道対策室より依頼を受けた能越自動車道氷見南IC（仮称）の整備に伴う惣領浦野之前遺跡（氷見市惣領地内）の試掘調査を実施した。これら2件の試掘調査は、平成26年3月の実施となつたため、同時期に編集作業を実施していた先述の『氷見市内遺跡発掘調査概報IV』では未報告となつた。そこで本書では、平成26年度の試掘調査成果に加え、平成25年度下半期に実施した上記2遺跡の試掘調査の成果についても報告する。

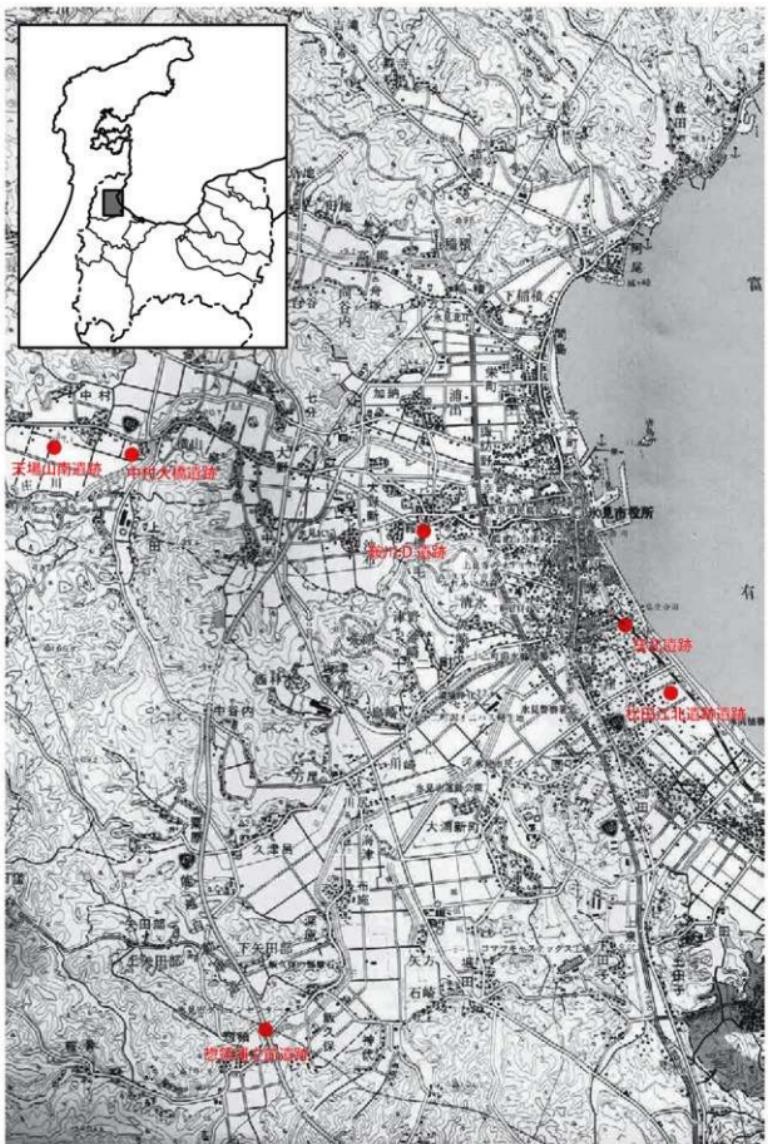
さて、平成26年度の埋蔵文化財試掘調査事業では、平成26年12月までに氷見市内の民間開発行為に先立つ試掘調査3件、公共事業に先立つ試掘調査1件、合わせて4件の試掘調査を実施した。これら試掘調査の実施にあたり、国庫と県費の補助を受けた。

民間の開発行為に先立つ試掘調査は、宅地の造成に伴う松田江北遺跡（崖地内）、宅地造成及び介護施設建設に伴う崖北遺跡（崖地内）、ドラッグストア広告塔設置に伴う鞍川D遺跡（鞍川地内）、以上3遺跡で実施した。調査は7月から9月にかけて断続的に実施した。

公共事業に先立つ試掘調査としては、富山県高岡土木センターより依頼を受け、一般国道415号（谷屋大野バイパス）道路改築事業に伴う中村大橋遺跡の試掘調査を11月下旬から12月初旬にかけて実施した。

現地の調査が終了した12月から、昨年度末に試掘調査を実施した2遺跡分の出土遺物の整理作業を開始し、洗浄・注記・実測等を実施した。平成27年1月より、本文の執筆、図面トレス作業、遺物写真的撮影等を実施した。

なお、報告書の作成業務と並行して、3月3日には一般住宅建設に先立つ柳田茨木遺跡（柳田地内）の試掘調査を実施した。この調査成果については、来年度の調査報告書で報告する予定である。



第1図 調査対象地位置図 ($S = 1/50,000$)

第2章 一般国道415号道路改築事業に伴う天場山南遺跡・中村大橋遺跡試掘調査

第1節 遺跡の環境

(1) 地理的環境（第2図）

天場山南遺跡が所在する谷屋地区は、上庄川北岸の平地と上庄川の支流論田川の谷間に位置し、古くから石川県の羽咋市と志雄町へ往来する分岐点である。谷屋から論田・熊無にかけての地域は地滑りが多発する地域で、谷屋地区北側の丘陵で平成14年11月に地滑りが発生したほか、南側の新保地区の丘陵部でも平成21年に地滑りが発生している（氷見市1999・2000・氷見市立博物館2007）。天場山南遺跡は、谷屋地区東側の平地部、標高約13mに立地する。周辺は水田として利用されており、北側には独立丘陵である天場山が所在する。

中村大橋遺跡が所在する中村地区は、谷屋地区の東側、上庄川中流域に位置し、かつては阿努莊に属していた。中村大橋遺跡は、標高約10mに立地する。周辺は水田として利用されており、南東側には上庄川の廃川地が接する。

(2) 歴史的環境

以下、上庄川流域の遺跡について中流域を中心に概観する（氷見市2002・氷見市教育委員会2001）。上庄川流域の縄文時代の遺跡は、上流丘陵部と下流域に散在しており、中流域では未確認である。また弥生時代の遺跡についても、中流域では未確認である。安定した平野が開け、弥生時代中期から終末期の遺跡が複数営まれた下流域や、氷見市の弥生時代終末期の集落跡、小久米A遺跡が立地する上流域とは対照的である。

古墳時代に入ると多くの古墳群が築かれるようになる。この地域は氷見市内でも最も古墳が集中する地域であり、県下最大級規模の円墳を擁する泉古墳群、発掘調査で短甲が出土した古墳時代中期のイヨダノヤマ古墳群、平野部の独立丘陵に単独で築かれた前方後円墳の中村天場山古墳など、古墳時代前期から後期にかけての古墳が多数確認されている。谷屋地内には、谷屋新堂古墳や谷屋浦出古墳群があり、谷屋浦出古墳群に隣接する谷屋B遺跡では、古墳時代後期の須恵器や滑石製の子持勾玉が採集されている。谷屋地区とは論田川を挟んで南側に位置する丘陵上には新保城山古墳群、そのさらに南側には新保古墳群が所在し、いずれも古墳時代初頭の築造と推定されている。また上庄川流域では、古墳時代後期以降、横穴墓群も複数造営されており、上庄川中流域には新保横穴群・中村横穴群が所在する。

古代から中世にかけても遺跡が広く分布し、古墳時代に引き続いだ積極的な開発が行われていた地域と推定される。谷屋地区の南西、小窪地区には古代寺院の小窪廃寺跡が所在する。これまでに平瓦や須恵器が採集され、8世紀初め頃の寺院と推測されている。小窪廃寺跡の南方丘陵裾にその瓦の一部を供給した小窪瓦窯跡が立地しているほか、廃寺周辺には新保南遺跡や新保野際遺跡といった古代から中世にかけて断続的に営まれた遺跡が所在する。谷屋地区に所在する谷屋A遺跡は、「上坊寺」と呼ばれる寺院伝承地である。近くの飛瀧神社に祀られている聖觀音菩薩像と地藏菩薩像は、上坊寺跡に建立された白山社に祀られていたものが、昭和2年に合祀した際に遷座されたものである、という。どちらも朽損が著しいが、平安時代後期の作とされている（氷見市1963・氷見市教育委員会2002）。

中世の遺跡としては、山城跡や宗教関連遺跡が複数確認されている。谷屋地区と論田川を挟んだ南側には、先に触れた新保城山古墳群を改変して築かれた新保城跡があり、谷屋地区西端の丘陵上には

飛滝城跡が立地する。中村地区北側の丘陵には、戦国時代末期に上杉氏の支城のひとつとして築かれた中村城跡が立地する。また、谷屋地区的西側、論田地区的山間部には論田経塚があり、かつて瓦経が出土したと伝えられるほか、谷屋地区北西の熊無地区には中世墓である熊無遺跡があり、石仏・石塔類や集石が確認されている。

第2節 調査に至る経緯と経過（第2図）

平成19年に開通した能越自動車道氷見IC東側のアクセス道路、一般国道415号（鞍川バイパス）の整備に先立つ埋蔵文化財の保護対策協議は、平成11年度より行われていた。それと並行して、氷見IC以西、谷屋・大野両地区間のバイパス（谷屋大野バイパス）整備に先立つ埋蔵文化財についても、氷見市教育委員会と氷見土木事務所の間で議題にあがることとなった。この時点で複数あった計画ルートの中には泉古墳群を横切るものがあり、特に古墳群中の前方後方墳（22号墳）には影響を与えないルートを取るよう申し入れた。

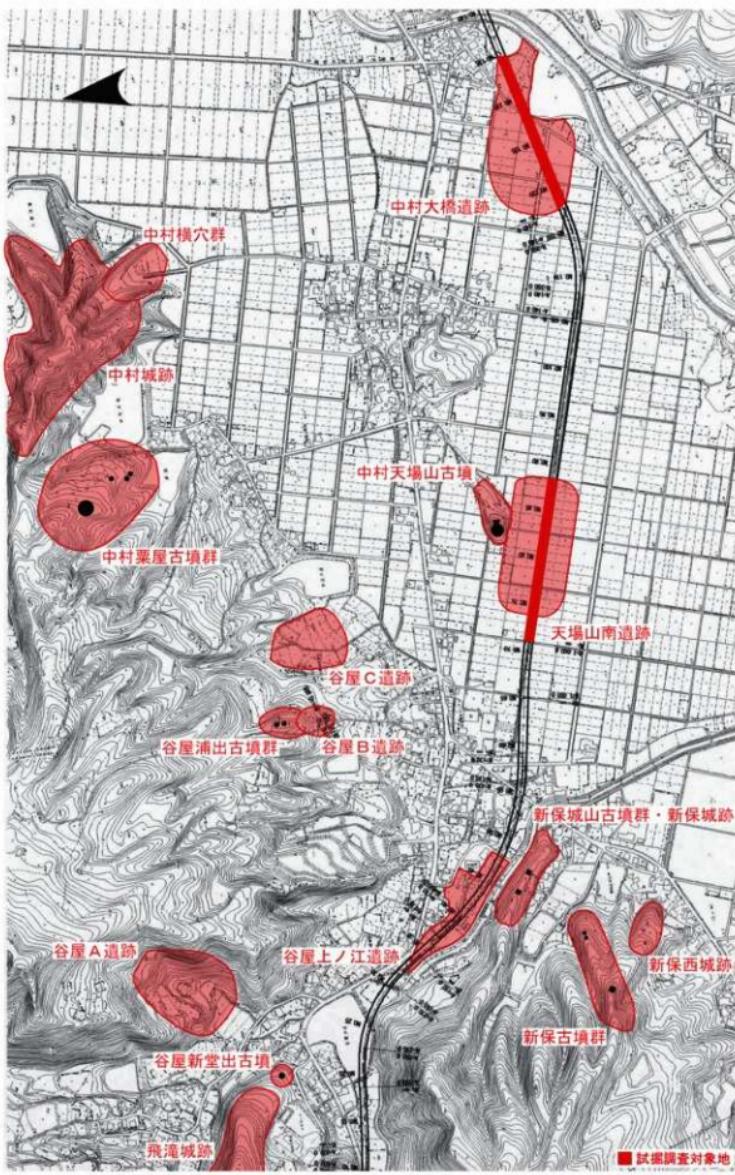
具体的な埋蔵文化財保護対策に関しては、谷屋～大野間のルートが地元、氷見市、氷見土木事務所を交えた協議会で確定した後に協議されることになった。初回の協議は、氷見市教育委員会と氷見土木事務所の担当者の間で、平成17年12月2日に行った。協議では、確定ルート周辺を対象にあらためて分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地について把握し、試掘調査の有無を判断することなど、氷見市教育委員会の意見を伝えた。この協議を受け、氷見市教育委員会は平成18年3月27日に予定地内を対象とする分布調査を実施した。その結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である領毛A遺跡の周辺で遺物を採集したほか、3か所で新たに遺物の散布が確認された。3か所の散布地は、谷屋地内の谷屋上ノ江遺跡、谷屋・中村間にまたがる天場山南遺跡、中村地内の中村大橋遺跡として周知し、試掘調査の対象とすることになった。

平成19年6月から8月には、谷屋大野バイパス計画ルートと泉古墳群の位置関係を把握するため、氷見土木事務所による泉古墳群の測量調査が実施された。測量調査は、泉古墳群中の前方後方墳（22号墳）を保護し、発掘調査が必要な古墳の位置情報を確認するためのもので、氷見市教育委員会との協議により、測量調査の対象は約20,000m²、6号墳・7号墳（猫塚）・8号墳・9号墳（鶴塚）・21号墳・22号墳の6基の古墳を含む範囲とした。測量調査の終了後、氷見市教育委員会は氷見土木事務所に対し、測量調査の成果に基づいたルートの調整を要請した。その結果、6・7号墳が削平されるルートと8・9号墳が削平されるルート等が検討されることになった。なお、平成27年3月現在、8・9号墳が削平されるルートで事業計画が進められている。

平成20年から22年度まで、順次、用地取得等が進められ、平成23年度には、先行して用地買収が完了した谷屋上ノ江遺跡の試掘調査を実施した。調査の結果、古墳時代から古代の遺構・遺物が少量確認されたものの、本調査は不要と判断した。それにより谷屋上ノ江遺跡を含む主要地方道高岡氷見線以西の区間にについて工事が進められ、平成26年11月1日には谷屋区间1.1kmが開通し、供用開始されるに到った。

一方、主要地方道高岡氷見線以東についても順次用地取得が進められ、平成25年11月には、富山县高岡土木センターより氷見市教育委員会へ、谷屋地内の天場山南遺跡の試掘調査が依頼された。現地の調査は平成26年3月に実施することとなり、それに向けて、富山县高岡土木センターによる地元説明等が行われた。試掘調査は、平成26年3月3日から同6日にかけて実施した。

さらに平成26年度には、中村地内に所在する中村大橋遺跡周辺の用地取得が進められた。平成26年8月には、富山县高岡土木センターより氷見市教育委員会へ、中村大橋遺跡の試掘調査が依頼された。試掘調査は、平成26年11月26日から12月2日にかけて実施した。



第2図 一般国道415号（谷屋大野バイパス）道路改築事業調査対象地位置図 ($S = 1/10,000$)

第3節 天場山南遺跡試掘調査の概要

(1) 調査対象地（第3図）

天場山南遺跡は、平成18年度、今回の事業に先立ち実施した分布調査で発見された遺跡である。遺跡は谷屋地区東側の平地部、標高約13mに立地しており、分布調査では時期不明の土師器破片および近世陶器、寛永通宝などが採集された。

調査対象地は、農道拡幅部分であり、農道を挟んで南北に分かれる。農道については試掘対象とできず、また狹小な拡幅部分には重機を搬入することが不可能であった。そのため、調査は発掘作業員の人力による掘削とし、拡幅部分に試掘トレンチを2基、試掘坑を44基設定し、調査を実施した。なお、3月の調査ということで、すでに田起しが行われ、水が入れられている田があったため、そうした田は調査対象から除外せざるを得なかった。

(2) 調査の概要

所 在 地：水見市谷屋

調査対象面積：6,520m²

発 挖 面 積：70.64m²

調査 主 体：水見市教育委員会

調査 担 当 者：水見市教育委員会生涯学習・スポーツ課 主任学芸員 廣瀬 直樹

調査 期 間：平成26年3月3日～6日（のべ3日）

調査 原 因：一般国道415号道路改築事業

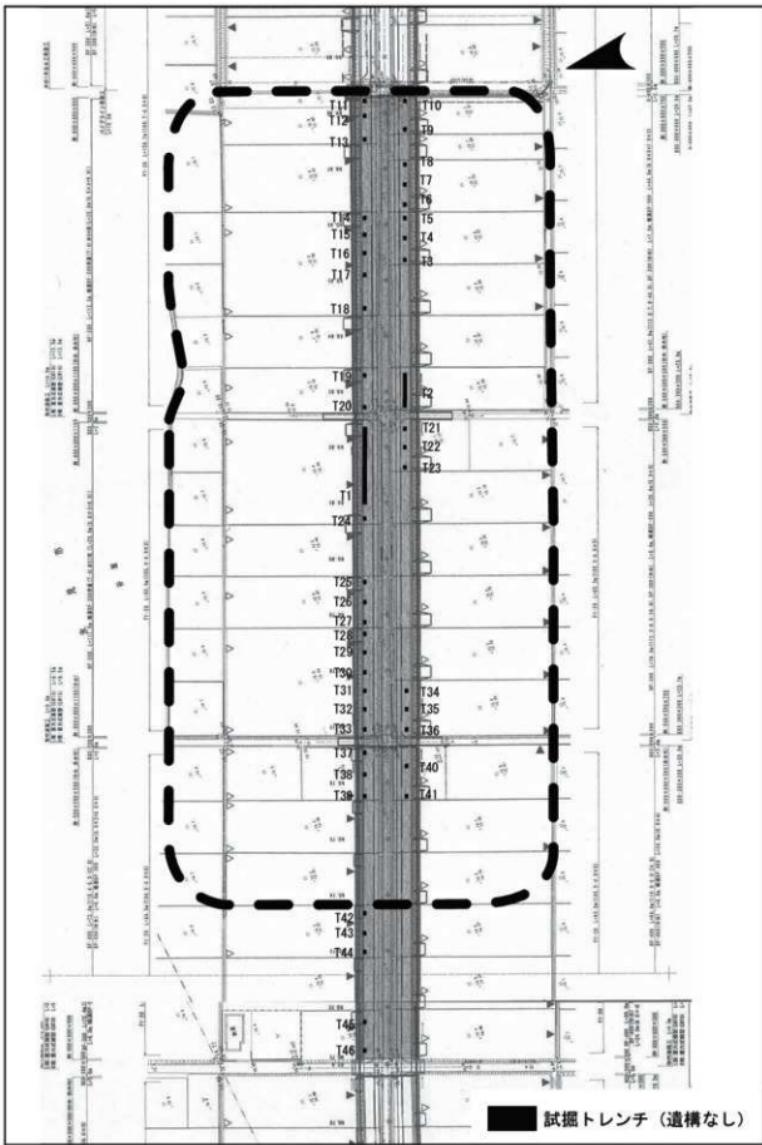
調査 方 法：調査対象地に試掘トレンチを2基、試掘坑を44基設定し、発掘作業員の人力による掘削を行った。

(3) 調査結果

調査では、耕作土の下に粘質土の厚い堆積が検出された。調査区全体に遺構は確認されず、遺物は近現代磁器3点が出土したのみであった。周辺はかつての土地改良の影響を強く受けているものと考えられ、そのため、本発掘調査は必要ないと判断した。

第1表 天場山南遺跡 基本層序

I層	耕作土	15～20cm	褐色粘質土
II層		60cm～	褐灰色粘質土 炭化物混じる。



第3図 天場山南遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1/1,600)

第4節 中村大橋遺跡試掘調査の概要

(1) 調査対象地（第4図）

中村大橋遺跡は、平成18年度、今回の事業に先立ち実施した分布調査で発見された遺跡である。遺跡は中村地区東側の平地部、標高約10mに立地しており、分布調査では古代須恵器・中世珠洲焼・近世陶磁器など28点が採集された。

調査対象地の大部分は水田として利用されている。特に、遺跡を横切る市道中村新保線の西側は過去には場整備が実施されているため、整然とした水田が広がる。一方、市道中村新保線の東側については、水田のほかに小規模な畑地が点在している。また、遺跡の南東側に位置する上庄川の廃川地は荒地となっている。

(2) 調査の概要

所 在 地：水見市中村

調査対象面積：7,613.3m²

発 挖 面 積：450.4m²

調査 主 体：水見市教育委員会

調査担当者：水見市教育委員会生涯学習・スポーツ課 主任学芸員 廣瀬 直樹

調査期間：平成26年11月26日～12月2日（のべ5日）

調査原因：一般国道415号道路改築事業

調査方法：調査対象地に試掘トレンチを26基設定し、バックホーによる機械力と発掘作業員による人力で掘削を行った。

(3) 調査結果

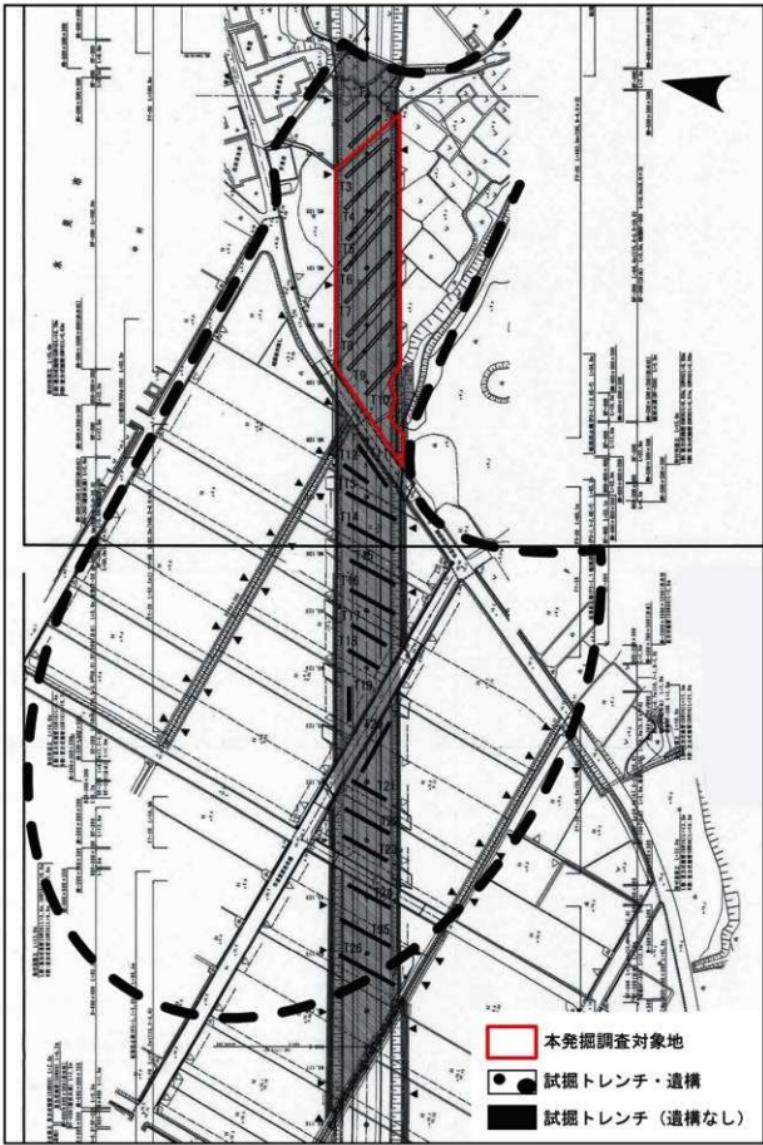
調査対象地東側の市道中村新保線と上庄川廃川地に挟まれた範囲で、遺構を検出し、古代須恵器・古代土師器などの遺物が出土した。

遺構は耕作土直下で検出され、遺構検出面の深さは15～20cmと非常に浅い。検出された遺構は溝・土坑・小穴等である。遺構・遺物が確認され、本発掘調査が必要となる面積は約1,977m²である。

なお、調査対象地の西端部については遺構・遺物ともに確認されなかつたため、本発掘調査の対象からは除外した。

市道中村新保線の西側については、地元の方の話では過去に大掛かりなほ場整備が行われているといい、試掘調査でも暗灰黄色～黒褐色粘質土が厚く堆積し、遺構は確認されなかつた。また遺物も古代須恵器・古代土師器・近世磁器がごく少量出土したのみであった。そのため市道中村新保線以西については、本発掘調査は不要と判断した。

試掘調査の終了後、本発掘調査の実施について富山県教育委員会生涯学習・文化財室および富山県高岡土木センター、水見市教育委員会生涯学習・スポーツ課、公益財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所の各担当者による協議を行つた。協議の結果、本発掘調査は公益財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所が担当し、平成27年度に実施することになった。



第4図 中村大橋遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1/1,600)

第2表 中村大橋遺跡（T 1～10） 基本層序

I層	耕作土	15～20cm	黒褐色粘質土
II層	遺構検出面	15～20cm	褐色粘質土
III層	地山		明褐色粘質土
	遺構埋土		灰黄褐色粘質土

第3表 中村大橋遺跡（T 11～26） 基本層序

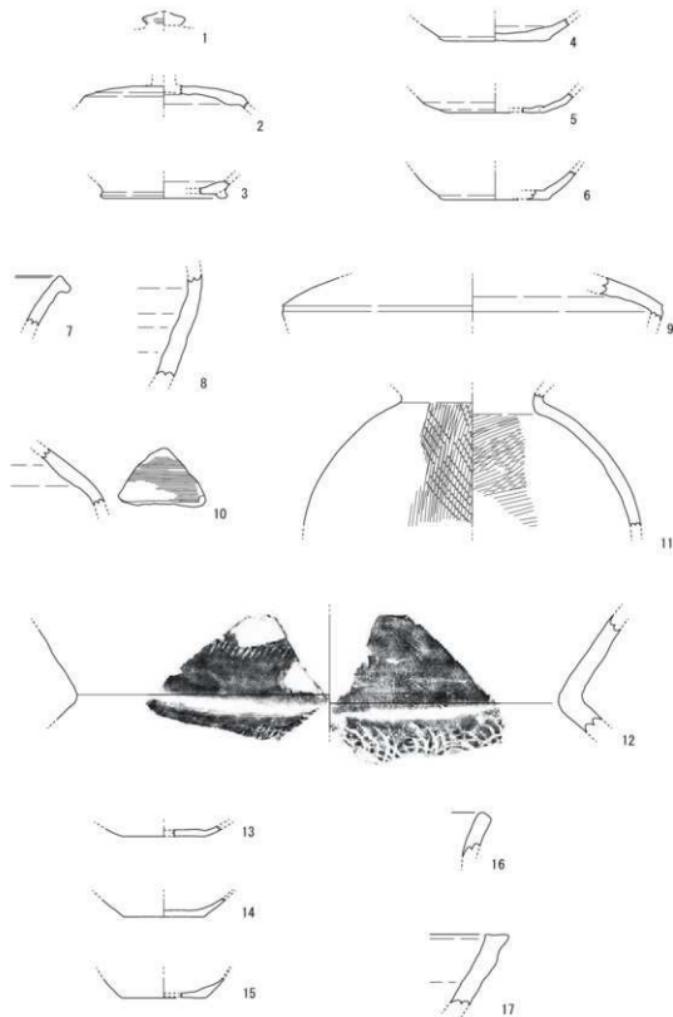
I層	耕作土	10cm	褐色粘質土
II層		10～15cm	褐灰色粘質土
III層		0～15cm	暗黃褐色粘質土
IV層		25～55cm	暗灰黃色粘質土
V層			黑褐色粘質土

(4) 出土遺物（第5図）

主な出土遺物は、古代土師器、古代須恵器、中世珠洲焼など144点である。そのうち17点を図示した。1～12は古代須恵器である。1・2は杯B蓋で、1はつまみのみ、2はつまみと口縁部を欠く。3は杯B底部破片である。高台径7.6cmを測る。4～6は無台の椀である。いずれも底部破片で底外面は回転ヘラ切りである。4は底径7.0cm、5は底径6.0cm、6は底径6.8cmを測る。7～10は壺瓶類である。7は広口瓶の口縁部、8は壺瓶類の体部破片で、いずれも内外面に回転ナデ調整を施す。9は瓶類の肩部で、内外面とも回転ナデ調整を施し、外面に自然釉がかかる。10は壺瓶類の体部で、内面は回転ナデ調整、外表面はカキメを施す。11は横瓶か。内面はハケ調整、外表面はタタキの後にハケ調整を施す。12は壺の頸部である。口縁部内面は回転ナデ調整、体部内面は同心円状當て具痕が残る。外表面は頸部が回転ナデ、上部と下部はタタキ目が見られる。これらの須恵器は、おおむね9世紀代を主体とするものと考えられる。

13～16は古代土師器である。13～15は無台の椀の底部で、いずれも磨滅が著しい。13は底径7.2cm、14は底径4.9cm、15は5.2cmを測る。16は粗製の鉢口縁部である。摩滅が著しい。

17は中世珠洲焼の擂鉢口縁部である。吉岡編年でIV期のものと考えられる。



第5図 中村大橋遺跡出土遺物実測図 (S = 1 / 3)

第3章 能越自動車道水見南IC整備事業に伴う惣領浦之前遺跡試掘調査

第1節 遺跡の環境（第6図）

惣領地区は、仏生寺川中流の西北岸に位置する。東南方は小平地で水田地帯が広がり、西北方は丘陵が続く（水見市2000）。惣領浦之前遺跡は、仏生寺川の支流である鞍骨川北岸の平野に位置し、北側を小丘陵に接する。標高は約7.5～8.5mを測る（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2010）。

惣領浦之前遺跡は、旧称NEJ-16遺跡、能越自動車道の建設に先立つ分布調査で発見された遺跡である。能越自動車道の建設に先立つて、平成15年度に実施された本発掘調査では、縄文時代後期初頭から晩期の自然流路や土坑、弥生時代後期の溝、古代から中世の集落跡が検出された。このうち弥生時代後期の溝からは、朱漆塗り盾や武器形木製品など祭祀に関わりのある遺物が出土した（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2010）。

鞍骨川を挟んだ対岸には惣領野際遺跡が所在する。惣領浦之前遺跡と同じく、平成15年度に能越自動車道建設に先立つ本発掘調査が実施された惣領野際遺跡では、縄文時代晩期中葉から弥生時代後期後半の自然流路、古墳時代初頭の自然流路や溝、中世前半の集落跡が検出されている（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2010）。

第2節 調査に至る経緯と経過

平成19年4月15日に開通した能越自動車道水見ICから高岡北IC間（氷見高岡道路）の延長11.2kmのうち、ほぼ中間地点にあたる惣領地区に、水見南IC（仮称）の追加設置されることになった。現在、平成27年度末の開通を目指して建設工事が進められている。

水見南IC（仮称）の建設地は、惣領浦之前遺跡の所在地にあたる。平成15年度には、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所によって能越道本線の建設に先立つ惣領浦之前遺跡の本発掘調査が実施された。今回計画されたダイヤモンド型のIC建設については、その施工対象地の大部分が平成15年度の既調査部分に該当することになった。ただし、水見南IC（仮称）から主要地方道氷見・惣領・志雄線への連結部分236m²については、本発掘調査の対象外だったため、あらためて調査が必要となった。

平成27年度中の開通のためには、平成26年度中に本発掘調査を実施しなければならず、そのため試掘調査は平成25年度には実施する必要があった。ただ、調査対象地は周辺でのIC建設工事等のための残土置き場となっていたため、その工事の進捗状況に応じて、残土を除去しなければならず、試掘調査は平成26年3月にずれ込むことになった。

試掘調査は、天場山南遺跡および小窪瓦窯跡の試掘調査の合間である平成26年3月18日に実施した。



第6図 惣領浦之前遺跡位置図 (S = 1/25,000)

なお調査対象地は、平成15年度に富山県文化振興財団が本発掘調査を実施し、弥生時代を主体とする多数の遺構・遺物が検出された範囲に接する。そのため、調査は層位の確認を主眼とした。

調査の結果、平成15年度の本発掘調査の結果とも合致する層位が確認され、弥生時代から中世の遺物が出土した。この結果に基づき、本発掘調査に向けた準備作業を開始したが、最終的には氷見市能越自動車道対策室との協議のうえで、本発掘調査は平成27年4月以降に実施することになった。

第3節 試掘調査の概要

(1) 調査対象地（第7図）

調査対象地は、現在の能越自動車道の敷地に隣接する水田のうち236m²である。調査時には、調査対象地を含む水田一区画は周辺の工事に伴う残土置き場となっていた。そのため、調査対象地については、工事業者によって旧水田耕作土面まで残土の掘削・除去を終えた後に調査を行った。

試掘調査では、調査対象地に南北方向（長軸方向）の試掘トレーニング（T1）を1基設定した。

(2) 調査の概要

所 在 地：氷見市惣領

調査対象面積：236m²

発 剥 面 積：15m²

調 査 主 体：氷見市教育委員会

調査担当者：氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課 主任学芸員 廣瀬 直樹

調 査 期 間：平成26年3月18日（のべ1日）

調 査 原 因：能越自動車道氷見南IC整備事業

調 査 方 法：調査対象地に南北方向（長軸方向）に試掘トレーニングを1基設定し、発掘作業員による人力で掘削を行った。

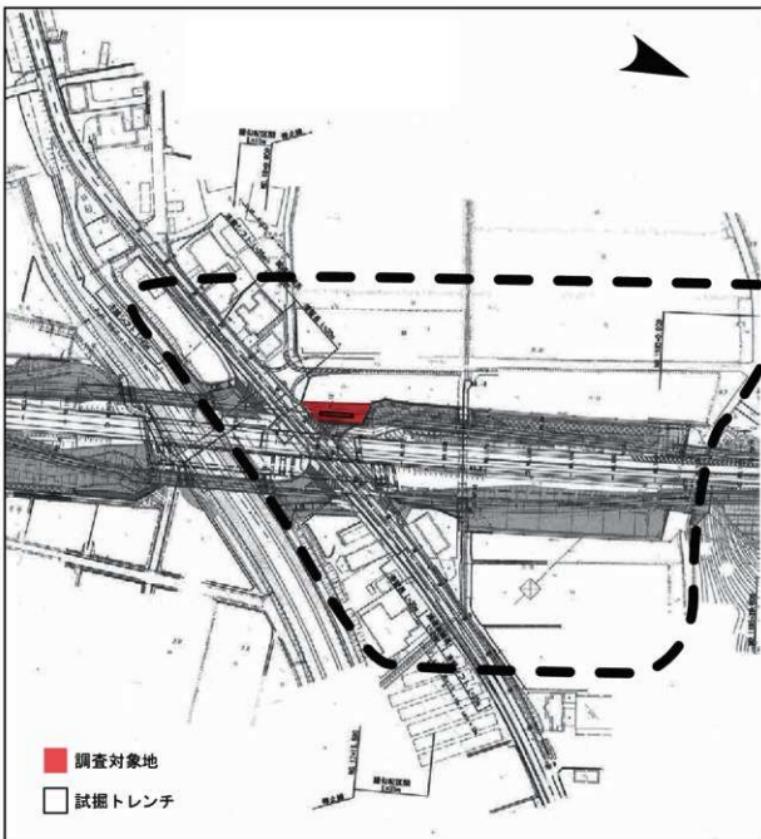
(3) 調査結果

調査では、表土（I～II層）の除去後、弥生時代から中世の遺物包含層（III～IV層）が検出された。これは財団の報告とも合致するものだが（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2010）、土色や性質は若干異なる。遺物包含層には弥生土器や須恵器の細片が含まれる。IV層の下には黄褐色粘質土のV層が堆積する。財団の報告では縄文時代の包含層にあたる層とも考えたが、遺物は含まれない。V層上面からは溝ないし落ち込みとみられる遺構が確認された。また、溝の北側上端にあたる地点では木の板および木の杭が検出された。遺構、遺物ともそれほど多くはないが、財団の本調査対象地に隣接し、類似する土層が確認できたことから、1面分の本発掘調査が必要と判断した。

調査では、弥生土器、古代須恵器、中世珠洲焼、中世土師器など、計17点が出土した（写真図版12-2・3）。なお、これら試掘調査出土遺物については、平成27年度実施予定の本発掘調査の調査報告書で報告を行う予定である。

第4表 物領浦之前遺跡 基本層序

I層	耕作土	7cm	オリーブ黒色シルト
II層	耕作土	11cm	黒褐色シルト
III層	遺物包含層	12cm	黄灰色粘質土 炭化物混じる
IV層	遺物包含層	15cm	黄褐色粘質土 ソフト
V層	地山か		黄褐色粘質土 かたくしまる
	遺構埋土		灰オリーブ色シルト



第7図 物領浦之前遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1/1,600)

第4章 その他、氷見市内開発事業に伴う試掘調査

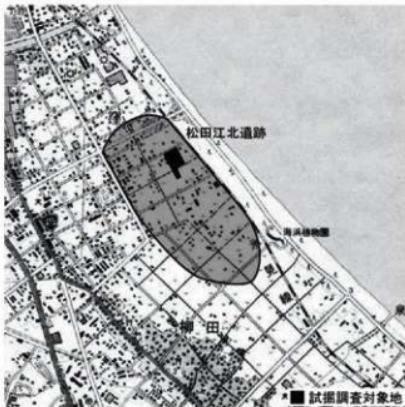
第1節 宅地造成に伴う松田江北遺跡試掘調査

(1) 遺跡の概要（第8図）

松田江北遺跡は、海岸沿いの砂丘上、標高約4mに立地する。平成5年度に氷見市教育委員会が実施した分布調査で発見された遺跡である。氷見市窪から柳田にかけて南北1km、東西500mの広い範囲に縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺物が散布している。現況は畑・宅地である（氷見市2002）。

これまで、遺跡範囲内の都市計画道路環状南線建設、一般住宅及び集合住宅建設、保育園建設等に先立つ試掘調査を実施してきたが、砂層が厚く堆積し、また近世以降の畑作による擾乱を受けていることから、本調査に至った例はない。

調査対象地は、遺跡の中央やや北寄りの7550.18m²、現況は畑地である。



第8図 松田江北遺跡位置図 (S = 1/25,000)

(2) 調査の概要

所 在 地：氷見市窪

調査対象面積：8,196.35m²

発 墓 面 積：300m²

調 査 主 体：氷見市教育委員会

調査担当者：氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課 主任学芸員 廣瀬 直樹

調 査 期 間：平成26年7月14日～17日（のべ4日）

調 査 原 因：宅地造成

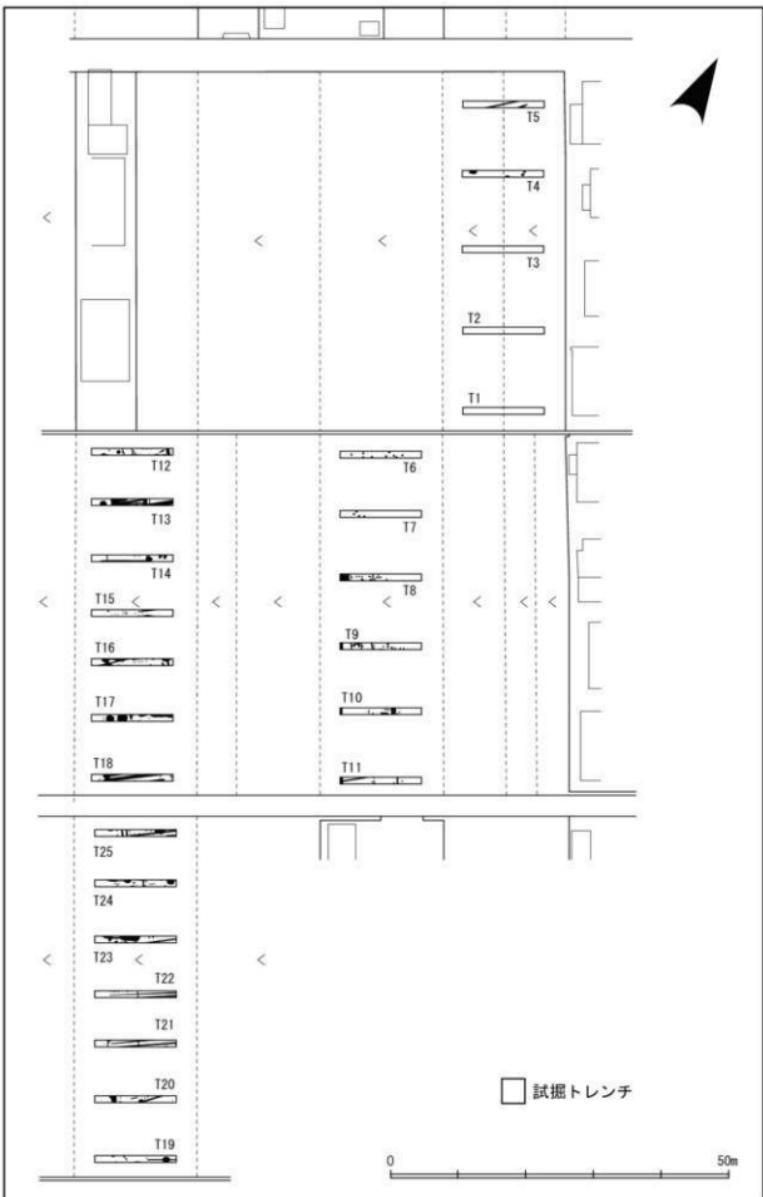
調 査 方 法：調査対象地に試掘トレンチ25基を設定し、バックホーによる掘削を行った。なお、すでに宅地として盛土されていた一部の区画と、畑地として作付けが行われていた範囲については、今回の調査対象から除外した。

(3) 調査結果（第9図）

調査では、厚さ約20から50cm程度の表土（耕作土）の下に、にぶい黄色～黄褐色の純砂層が検出された。なお、純砂層を70cm程度掘削すると湧水が確認されるため、約1m程度の深掘りを行ったものの、純砂層の下層については調査できなかった。

調査対象地では、広範囲に遺物が散布しており、弥生時代から近世まで幅広い年代のものが確認される。試掘トレンチでも、上記の時代幅を持つ遺物が表土中より出土した。

純砂層の上面では、遺構が検出された。遺構は、溝や土坑、小穴があり、溝は細いものが平行に並んでいる。遺構を掘削したところ、近世の陶磁器類が出土しており、近世中頃以降とされる砂丘地帶



第9図 松田江北遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1/700)

周辺の開墾に伴う可能性が高い。おそらく溝は畠の跡、小穴は稲架穴などと推測される。

主な出土遺物は、弥生土器、古代須恵器、中世珠洲焼、中世青磁、近世越中瀬戸焼、近世陶磁器、鉄滓、陶錘、土人形、砥石など計532点である。いずれも細片ばかりであった（写真図版16-1～3）。

以上、試掘調査では複数の遺構が検出されたものの、これらは近世以降のものと考えられるため、本発掘調査は不要と判断した。また、調査できなかった区画および試掘調査実施後に工事の対象地に含められた区画についても、周辺の調査結果から類推して本発掘調査は不要と判断した。

第5表 松田江北遺跡 基本層序

I層	耕作土	20～50cm	黒褐色砂質土
II層		0～60cm	暗灰黄色砂
III層	地山		にぶい黄色～黄褐色砂
	遺構埋土		暗灰黄色砂

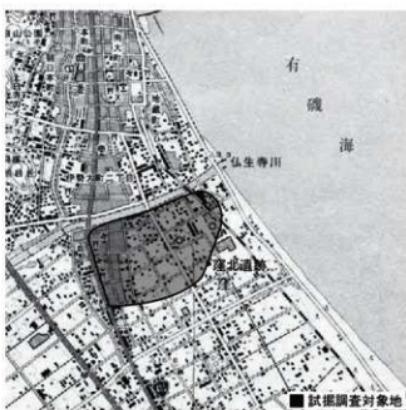
第2節 介護施設建設に伴う崖北遺跡試掘調査

(1) 遺跡の概要（第10図）

崖北遺跡は、海岸沿いの砂丘上、標高約4mに立地する。平成5年度に氷見市教育委員会が実施した分布調査で発見された遺跡である。氷見市崖地内、南北600m、東西650mの広い範囲に縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺物が散布している。現況は畑・宅地である（氷見市2002）。

これまで、遺跡範囲内の集合住宅建設等に先立つ試掘調査を実施してきたが、本遺跡の南側に所在する松田江北遺跡同様、砂層が厚く堆積し、また近世以降の畑作や宅地造成による擾乱を受けていることから、本調査に至った例はない。

調査対象地は、遺跡の東端部の1595.64m²で、かつては畑地だったようだが、現況は荒蕪地である。



第10図 崖北遺跡位置図 (S = 1/25,000)

(2) 調査の概要

所 在 地：氷見市崖

調査対象面積：1595.64m²

發 挖 面 積：25m²

調 査 主 体：氷見市教育委員会

調査担当者：氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課 主任学芸員 廣瀬 直樹

調 査 期 間：平成26年8月27日（のべ1日）

調 査 原 因：宅地造成および介護施設建設

調 査 方 法：調査対象地に試掘トレンチを2基設定し、発掘作業員による人力で掘削を行った。

なお、調査対象は敷地のうち建物の建設が予定されている範囲とした。

(3) 調査結果（第11図）

調査では、厚さ約20cm程度の表土（耕作土）の下に、遺物を包含する灰黄褐色砂質土層、その下にぶい黄褐色の純砂層が検出された。

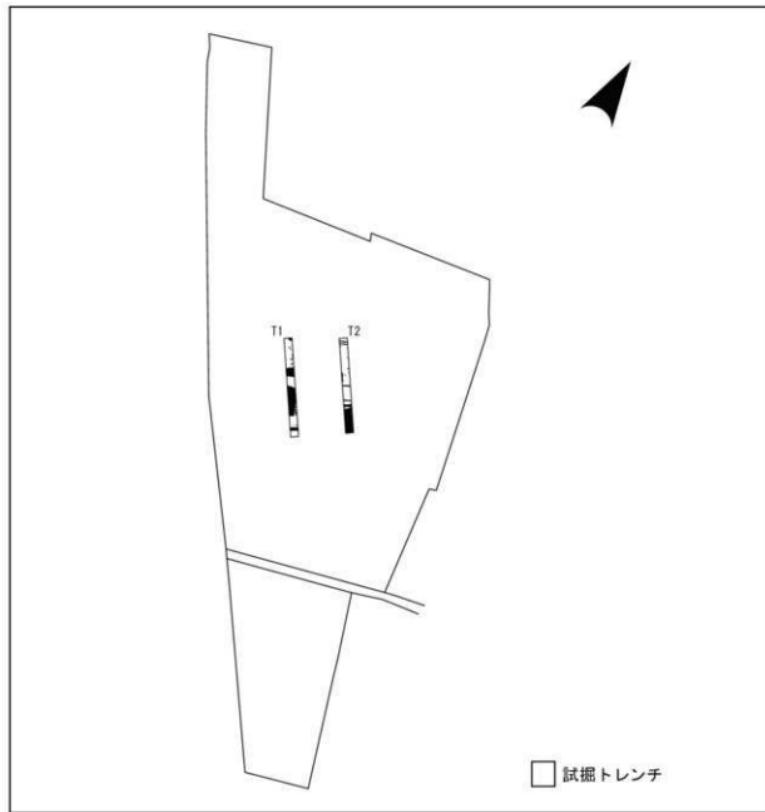
試掘トレンチでは、包含層より後述する遺物が出土したほか、純砂層の上面で、遺構が検出された。遺構は、溝や方形土坑、柱穴等がある。遺構を掘削したところ、近世陶器が出土したため、遺構は近世以降の畑作に伴うものである可能性が高い。

遺物は、包含層および遺構内より、中世土師器4点、中世珠洲焼1点、近世越中漸戸焼3点のほか、近世から近代の陶磁器類、鉄釘などあわせて28点が出土した（図版18-3）。

以上、試掘調査では遺構が検出されたものの、これらは近世以降のものと考えられるため、本発掘調査は不要と判断した。

第6表 痿北遺跡 基本層序

I層	耕作土	20~30cm	黄褐色砂質土
II層		23~40cm	灰黄褐色砂質土
III層	地山		にぶい黄褐色砂
	遺構埋土		褐灰色砂質土 炭化物混じる



第11図 痿北遺跡試掘トレンチ位置図 (S = 1/600)

第3節 ドラッグストア広告塔設置に伴う鞍川D遺跡試掘調査

(1) 遺跡の概要 (第12・13図)

鞍川D遺跡は、平成6年度の氷見市教育委員会の分布調査で発見された遺跡である。分布調査では、須恵器2破片、珠洲焼2破片、瀬戸1破片、越中瀬戸1破片、近世陶器1破片などが採集されており、古代・中世主体の遺跡と推定された。これまで、一般国道415号（鞍川バイパス）建設に先立つ試掘調査・本調査と、金沢医科大学氷見市民病院建設および市道鞍川塙峰線バイパス整備事業に先立つ試掘調査、民間ドラッグストア建設に先立つ試掘調査・本調査を実施している。

一般国道415号（鞍川バイパス）建設に先立つ調査は、平成13年度に試掘調査、平成15年度に本調査を実施した。本調査では、井戸跡、流路、溝、土坑などの遺構が検出された。遺物としては珠洲焼や土師器皿、青磁、白磁、山茶碗など13世紀前半を中心、12世紀後半から13世紀代いっぱいの遺物が出土している。建物跡等は見つかっていないが、いずれも13世紀前半の構築と考えられる井戸跡が3基検出された。調査区の外側に向けて平安時代末から鎌倉時代始め頃に営まれた集落が広がっていると推測される。また、検出された3基の井戸跡のうち、1基では丸木舟を転用した井戸側が用いられていた。

平成21年度には、氷見市民病院建設事業に先立つ試掘調査を実施した。調査では、対象地の広い範囲で遺構・遺物を確認した。検出した遺構は溝・土坑・ピット等である。出土遺物は、中世珠洲焼、中世土師器等、12世紀後半から13世紀前半が中心となる。ただし、遺構の多くは、昭和30年代に実施された土地改良により上部が削平されているものと考えられ、遺存状態は良くない。

平成23年度には、市道鞍川塙峰線バイパス整備事業に先立つ試掘調査を実施した。調査では、弥生土器・中世珠洲焼・中世青磁・時期不明土器片・鉄滓等が出土したが、遺構は確認できなかった。

平成25年度には、民間ドラッグストア建設に先立つ本調査を実施した。調査では、中世の柵跡と溝を検出し、古代および中世の遺物が出土した（氷見市教育委員会2014b）。

以上、鞍川D遺跡は、12世紀後半から13世紀代を主体とする遺跡である。遺構の分布状況からすると、遺跡の東側からその北側にかけて集落が広がっているものと考えられる。

調査対象地は、平成25年度に本発掘調査を実施し、平成26年9月には建設中だったドラッグストアの敷地内である。調査の時点では、駐車場のために旧水田面の上に碎石等を敷き詰めた状態であった。



第12図 鞍川D遺跡位置図 (S = 1/25,000)

(2) 調査の概要

所 在 地：氷見市鞍川

調査対象面積：1 m²

発 挖 面 積：1 m²

調査 主 体：氷見市教育委員会

調査担当者：氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課 主任学芸員 廣瀬 直樹

調査 期 間：平成26年9月3日（のべ1日）

調査 原 因：ドラッグストア広告塔設置

調査 方 法：調査対象地に試掘トレーニング1基を設定し、発掘作業員による人力で掘削を行った。

(3) 調査結果

調査対象地は、平成25年度に建物建設箇所の本調査を実施した民間ドラッグストアの敷地内である。今回の調査原因となった広告塔の建設地は、約1 m²と狭小ではあるが、平成15年度と平成25年度の本調査対象地に近接する地点であり、工事はドリルによる掘削のため、立会調査では対応しきれないため、試掘調査を実施した。

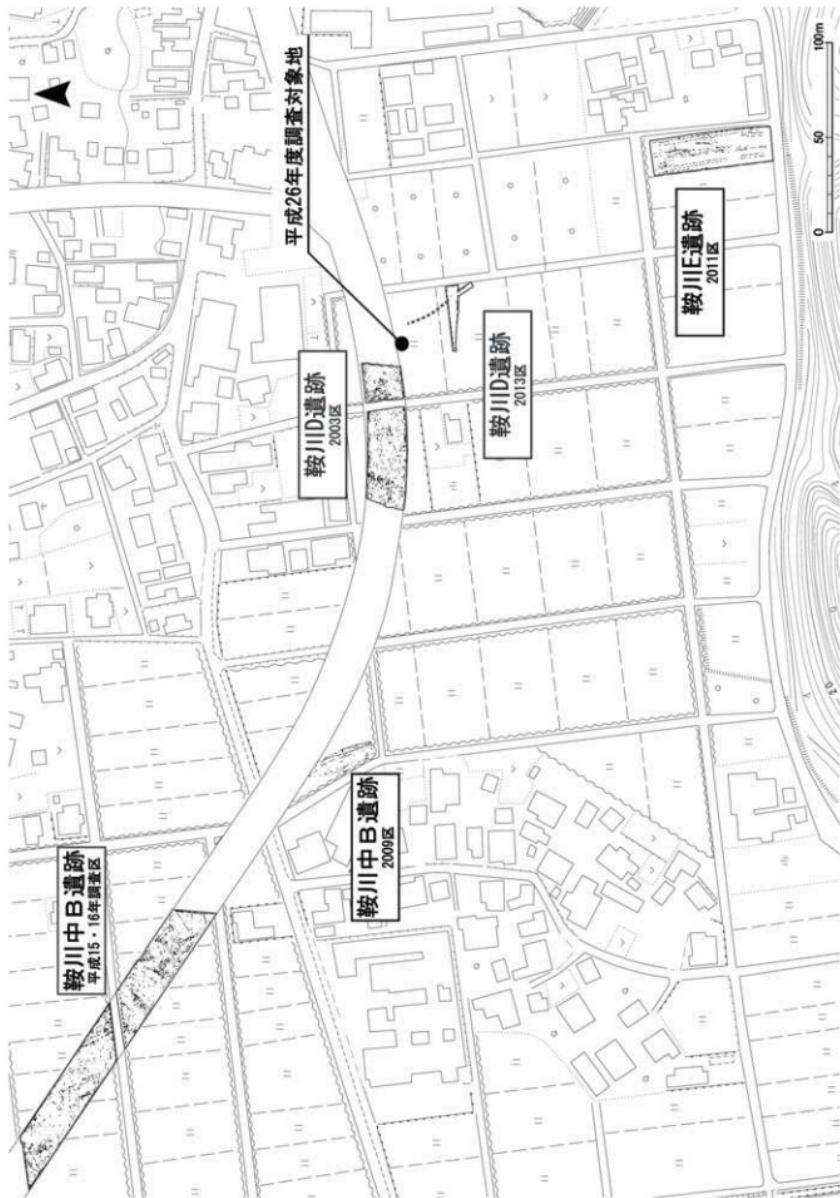
調査対象地は碎石で整地されているため、碎石層を2 m四方で掘削し、旧耕作土からは1 m四方の試掘坑（T 1）を設定して調査を実施した。

調査では、旧耕作土以下、擾乱層が続き、コンクリート片などが混じる。擾乱層の下層に褐色～オリーブ灰色シルトの層が検出され、その上面で、稻架穴とみられるピット3基を検出した。なお、そのうち2基には稻架木が現存していた。この検出面は、平成13年度の試掘調査で、ほ場整備による擾乱層と判断した層と類似しており、調査対象地もすでに擾乱をうけているものと推測される。遺物はコンクリート片に混じり近現代の陶磁器が出土したのみだった。

以上、調査対象地は過去のほ場整備による擾乱を受けているため、ドラッグストア広告塔の設置工事については、問題ないものと判断した。なお、調査終了後、速やかに広告塔の設置工事が実施される予定だったが、その後市側との協議により広告塔設置計画が変更されてしまったため、平成27年3月現在、広告塔は未設置である。

第7表 鞍川ID遺跡 基本層序

I層	整地土層	30cm	碎石
II層	旧耕作土	45～50cm	黒褐色粘質土
III層	擾乱層	0～20cm	褐色砂質土
IV層	擾乱層	0～13cm	黒褐色シルト
V層	擾乱層		褐色～オリーブ灰色シルト 上面で稻架穴を検出



第13図 鞍川D遺跡試掘調査対象地位置図 (S = 1/2,500)

引用・参考文献

- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2010 『惣領浦之前遺跡・惣領野原遺跡発掘調査報告 一
能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告IX-』 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第45集
- 氷見市 1963 『氷見市史』
- 氷見市 1999 『氷見市史』 9 資料編7 自然環境
- 氷見市 2000 『氷見市史』 6 資料編4 民俗、神社・寺院
- 氷見市 2002 『氷見市史』 7 資料編5 考古
- 氷見市教育委員会 2001 『新保南遺跡 中山間地域総合整備事業に伴う試掘調査概要』 氷見市埋蔵文化財調査
報告第34冊
- 氷見市教育委員会 2008 『氷見市遺跡地図[第三版]【改訂版】』 氷見市埋蔵文化財調査報告第51冊
- 氷見市教育委員会 2012 『氷見市内遺跡発掘調査概報II 谷屋上ノ江遺跡 鞍川E遺跡 鞍川D遺跡 柳田南
遺跡』 氷見市埋蔵文化財調査報告第59冊
- 氷見市教育委員会 2014a 『氷見市内遺跡発掘調査概報IV 加納金宮遺跡 宇波ヨシノヤ中世墓群』 氷見市埋
蔵文化財調査報告第63冊
- 氷見市教育委員会 2014b 『鞍川D遺跡II 民間 ドラッグストア建設に伴う発掘調査報告』 氷見市埋蔵文化財調
査報告第65冊
- 氷見市立博物館 2007 『特別展 地震・地すべり・火事・洪水 一災害にまなぶ氷見一』
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館



図版1 一般国道415号（谷屋大野バイパス）道路改築事業調査対象地空中写真
(1947年米軍撮影) 国土地理院 白枠が遺跡の範囲（左：天場山南遺跡、右：中村大橋遺跡）



1. 手前：天場山南遺跡・奥：中村大橋遺跡（西から）



2. 手前：中村大橋遺跡・奥：天場山南遺跡（東から）

図版2 一般国道415号（谷屋大野バイパス）道路改築事業調査対象地遠景 平成23年9月撮影



1. 調査区近景（東から）



2. 調査区近景（西から）
左奥の独立丘陵が中村天場山
古墳



3. 作業風景（1）

図版 3 天場山南遺跡試掘調査（1）



1. 1 完掘状況



2. T 1 土層断面



3. 作業風景 (2)

図版 4 天場山南遺跡試掘調査 (2)



1. 調査区近景（西から）



2. 調査区近景（東から）



3. 作業風景

図版 5 中村大橋跡試掘調査（1）



1. T 4 完掘状況



2. T 4 土層断面



3. T 4 遺構検出状況

図版 6 中村大橋跡試掘調査（2）



1. T 5 完掘状況



2. T 5 土層断面



3. T 5 遺構検出状況

図版 7 中村大橋跡試掘調査（3）



1. T 7 土層断面及び遺構検出状況



2. T 8 土層断面及び遺構検出状況



3. T 9 土層断面及び遺構検出状況

図版 8 中村大橋跡試掘調査 (4)



1. T 16土層断面

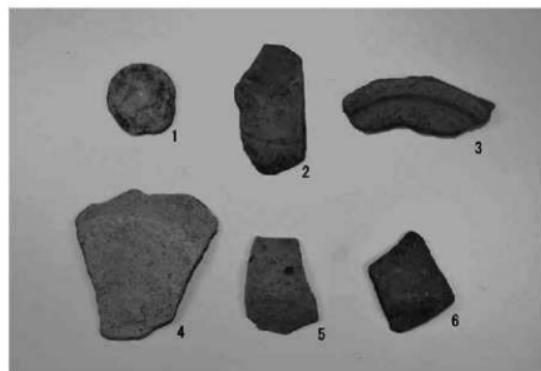


2. T 25完掘状況



3. T 25土層断面

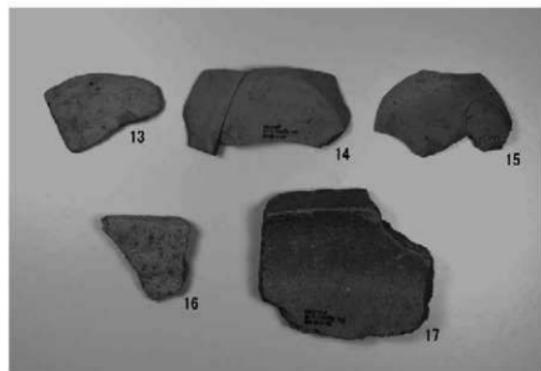
図版 9 中村大橋跡試掘調査（5）



1. 遺物写真（1）



2. 遺物写真（2）



3. 遺物写真（3）

図版10 中村大橋跡試掘調査（6）



1. T 1 完掘状況



2. T 1 土層断面

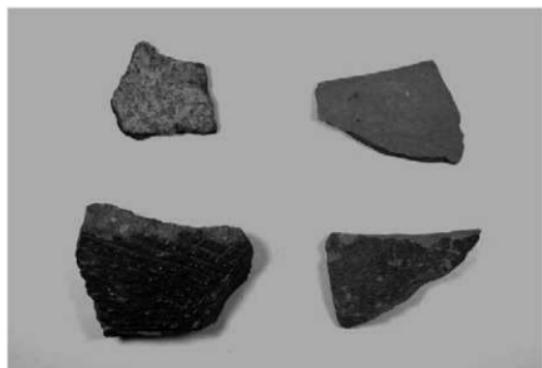


3. T 1 溝跡木製品出土状況

図版11 惣領浦之前遺跡試掘調査（1）



1. 作業風景



2. 出土遺物（1）

上段左：弥生土器

その他：古代須恵器



3. 出土遺物（2）

中世須恵器

図版12 惣領浦之前遺跡試掘調査（2）



1. 調査区近景（北から）



2. T 4 完掘状況



3. T 4 土層断面

図版13 松田江北遺跡試掘調査（1）



1. T 6 完掘状況



2. T 8 土層断面及び
遺構検出状況



3. T 9 完掘状況



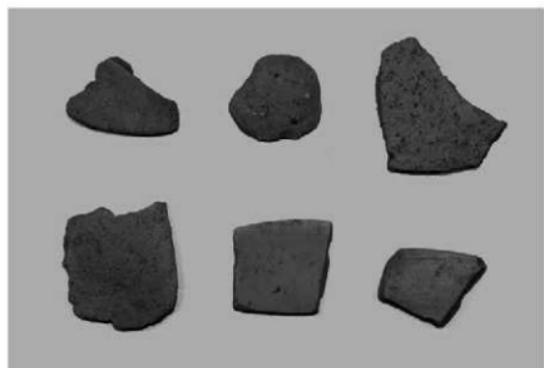
1. T 13土層断面



2. T 17完掘状況



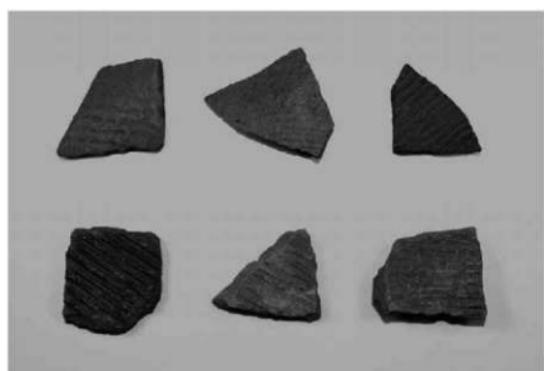
3. 作業風景



1. 出土遺物（1）

上段：弥生土器

下段：中世土師器



2. 出土遺物（2）

上段：古代須恵器

下段：中世珠洲焼



3. 出土遺物（3）

上段：近世越中瀬戸焼

下段：左から陶鍤2点、

土人形、砥石

図版16 松田江北遺跡試掘調査（4）



1. T 1 完掘状況



2. T 1 土層断面



3. 作業風景

図版17 墓北遺跡試掘調査（1）



1. T 2 完掘状況



2. T 2 土層断面



3. 出土遺物
左から中世珠洲焼、中世土師器、
越中瀬戸焼

図版18 墓北遺跡試掘調査（2）



1. T 1 完掘状況
黒く見えるのは稻架木



2. T 1 土層断面



3. 作業風景

報 告 書 抄 錄

平成 27 年 3 月 17 日印刷
平成 27 年 3 月 20 日発行
水見市埋蔵文化財調査報告第 66 冊

水見市内遺跡発掘調査概報 V
一般国道 415 号道路改築事業に伴う試掘調査ほか

編集・発行 水見市教育委員会
〒935-8686
富山県水見市鞍川1060番地
☎0766 (74) 8215
印 刷 株式会社 トーザワ